

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501361		
法人名	医療法人重仁会		
事業所名	グループホームレガロ大谷地		
所在地	札幌市厚別区大谷地東5丁目7-14		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型通所介護サービス(共用型)を利用して、入居者様にもたくさんのレクリエーションや運動の時間を提供できます。行事や、外食なども計画して行っています。隣接の病院が運営母体であることから、入居者様の体調不良の際は、内線やメールで連絡を取り合い、早い対応ができます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigvosvoCd=0190501361-00&PrefCd=01&VersionCd=02
-------------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市地下鉄東西線大谷地駅から徒歩10分の利便性のよい住宅地にあり、法人グループの病院に隣接した2階建て2ユニットのグループホームである。2015年1月に開所したばかりで、建物内は1階と2階は異なるが落ち着いた配色を施し、廊下は、車いすが交差できるほど幅広く全体的にゆったりとした作りである。運営母体は医療法人で、地域医療に長く貢献しており、地域では欠かせない病院を中心とした法人グループである。事業所は、法人母体の病院と24時間体制の医療連携で構築しており、災害対策の緊急体制もグループ内の連携が築かれている。開設間もない事業所だが、法人理念を基に事業所独自の理念を職員で検討し作成しており、『笑顔あふれる生活の支援』とあるように「笑いヨガ」を職員が学んで実践しており、笑顔で明るいグループホームである。地域に於いての認知症介護の拠点としてこれから期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成28年11月10日

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議等で、理念を斉唱するなどして、共有、実践に繋げる努力を行っています。	法人の理念を基に事業所の理念を職員で検討して作成し、事業所内に掲示している。また、毎日の出勤時に理念を確認し、毎月の全体会議で理念を唱和して、職員間で共有し実践につなげている。	法人の理念と事業所の理念を申し送り時に唱和したり、全体会議で理念に基づいたケアが実践できたかなど職員で検討して理解を深め共有することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の子供たちが、ホームを訪問してくれたり、冬休みの自由研究の題材にしてくれたり、買い物や外食など、外へ出かける機会を多くして地域との交流を心掛けています。	隣接の小学校の生徒の訪問による歌や踊り、運動会の観覧など相互の交流が利用者の楽しみとなっている。また、道新キッズ特派員の子供記者による取材を受けるなど地域との関わりが広がってきている。	小学校の生徒による交流が広がってきたが、町内会や老人クラブなど地域との交流の中で、利用者も地域の一員となれるような事業所の関わりに期待したい。
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来客者様に、母体である大谷地病院で行っている物忘れ外来や、認知症カフェのパンフレットを配布したりして、認知症を理解してもらえるように努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、有意義な会議を開催しています。御家族様や地域包括の職員からの意見を取り入れてサービスに繋げています。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や老人クラブ会長、家族などが参加して定期的に開催され、運営状況の報告や意見や要望を聞く機会となっており、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催されているが、包括支援センター担当者や町内会の方などがいつも参加できるよう周知の工夫を図り、運営の課題を検討するなどこれからは期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、疑問点などを区役所に確認をとったりしています。又、社協にボランティアの受け入れの申請を行い、実際にボランティアの受け入れも行っています。	毎月の利用者の状況報告やホーム便り、行事計画書、運営推進会議議事録の配布など行っており、ボランティアの受け入れなど相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、職員全体に周知しています。又、職場内研修も行っています。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備して、年間計画の中で定期的に職員研修を行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や、勉強会などで虐待の知識を身につけ、虐待のない介護に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、勉強会を実施していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け、ゆっくりと丁寧な説明を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に家族様からの相談や、意見を聞き入れて、反映させて頂いています。	隔月にホーム便りを発行して、運営状況を家族に報告している。意見箱は、隣接しているグループの病院受付に設置しており、外出行事などへの意見がある。家族からの意見や要望は、運営推進会議や来所時に聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や勉強会で、職員の意見を聞き入れて、運営に反映させて頂いています。	全体会議をカンファレンスを含め、月2回行っており、職員面談も年1回行い職員からの意見や要望を聞く機会となり運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年同様に処遇改善交付金を通じ、給与水準の適正化を図り、福利厚生等の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や特性に応じた研修への参加を行っています。又、母体の大谷地病院から講師を要請して研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内では行われているが、法人外では行われていない為、今後は取り組みを行っていかうと思っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の想いをしっかりと把握して、色々な工夫をしてケアを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様とは必ず面談を行っており、良好な関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談の際に、必要としていることを聞き出せるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に食事を摂ったり、お茶を飲んだり、お手伝いをして頂いたり、良好な関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事にも家族様に相談をして、一緒に考えていく様に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のお友達などの来訪は快く受け入れています。電話や、手紙のやりとりの支援も行っていると思います。	利用者が近隣出身が殆どで、家族や友人、知人の来訪が多く、家族と外出も多い。以前からの通院時の売店や喫茶店など馴染みの店へ職員が同行するなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係を保てるように、スタッフがサポートするように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の郵便物等を、御家族様にお届けするなどの支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向は、ケアマネのアセスメントや、家族様の要望を聞き入れて把握に努めています。困難な場合は、生活歴を参考に、本人本位に検討しています。	利用者それぞれに担当者を2名体制でケアに努めている。アセスメントシートを活用して、本人や家族の要望を聞き取り、思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話や、御家族様からの話を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議や、毎日の申し送り等で把握し共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでスタッフの意見を聞き、又、家族様が面会に来られた際に意見を聞きケアプランに繋げています。	計画作成担当者が利用者の意見や要望を聞き、家族の意向や担当者の意見も踏まえてカンファレンスで検討し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月サイクルで状況により都度実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を業務マニュアルにも明記しており、記録はありのままに正しく、明確に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化や、状況に応じて柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の障がい者就労支援施設に昼食を発注して、入居者様と一緒に取りに行くなどしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の希望や、必要に応じて支援を行っています。	今までのかかりつけ医は継続しており、大谷地東地区内の通院は、職員が同行して受診している。週一回の看護師の訪問と隣接する協力医療機関との連携で、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護の際に、受診時の情報や、日々の様子を伝え、指示に従い支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者とカンファレンスを行うなどして関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明させて頂いています。	重度化や終末期の対応は、入居の契約時で説明し同意を得ている。看護師の訪問と隣接した協力病院が内線で繋がっており、24時間の医療連携体制で重度化や終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な、心肺蘇生やAEDの勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。又、隣接の母体病院との協力体制が整っています。	火災の避難訓練は、年2回、消防署の指導の下、隣接する法人本部の病院と連携して定期的実施している。また、災害時の備品や備蓄品を整備して、災害対策を行っている。	定期的な避難訓練を行っているが、町内会や家族の参加を促すなど地域との協力体制の災害対策の構築を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや入居者様への対応については、スタッフ間で注意をしながら対応しています。	利用者への言葉使いや対応について、職員間で注意を仕合って、人格を尊重した対応をしている。また、業務書類はプライバシーを損ねない管理を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に聞いたり、選択肢を提示するなどして、自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに合わせた対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容の利用を行っています。夏物、冬物の衣替えのお手伝いなども行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる入居者様には、積極的に準備や後かたづけを手伝っていただいています。外食や、出張寿司、イベント食などを定期的に行っています。	食事は、昼食がグループ内就労継続支援事業所が担当し、朝夕食は外部業者に委託している。利用者は配膳や片付けなど職員と一緒にしている。外食や行事食も多彩で、裏の駐車場でバーベキューや出前ピザ、出張寿司など楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックして、不足の場合は訪問看護師に連絡をとり指示を仰ぐようになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援しています。又、週一回の訪問歯科で状態を診て頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を元に、入居者様の排泄サイクルを把握して、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。	利用者ごとの排泄表を基に、それぞれの排泄サイクルを把握し、ひとり一人の表情や仕草などの状況を見ながら誘導し、トイレでの自立に向けた排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫はもちろんの事、Drや訪問看護師に相談しながら対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一応の入浴日は決めているものの、日々、個々の状況に応じて対応させて頂いています。	入浴は週2回以上予定しているが、日々の利用者の希望や状況により、午前中や午後からなど個々に沿った支援を行っている。1階の浴槽は、車いす入浴の特殊浴槽で、介護度の重い利用者も入浴が容易に配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、日中も臥床時間をもうけたりしています。昼夜逆転にならないような支援も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬情の確認を行う様に心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共用型デイを利用して、レクレーションや脳トレ、色々な体操を取り入れて、楽しめるような支援を行っています。又、天気の良い日は、散歩や日光浴などで気分転換ができるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーや隣接病院の売店などに、希望に沿って同行支援を行っています。又、家族様の協力で旅行や外泊の支援を行っています。	隣接する病院を中心とした法人グループの広大な敷地内の売店や近隣のスーパーに立ち寄りながら日常的に散歩をしている。また、いちご狩りや梅の花見、フォークコンサートなど希望を聞きながら外出行事の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は預り金ですが、ご自分でお財布を持っている方もいて、買い物の際に自身で支払って頂いています。又、預り金の方でも、買い物では、レジでの支払いの際は、ご自身で支払って頂くような支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望で、電話を繋いだり、手紙の投函等の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃の支援や、玄関に花壇を置いて季節感を採り入れています。廊下には、共用型デイで作成した季節感のある作品を飾っています。	共用空間は、1階と2階の壁の色が心理的な面で異なっており、採光や風通しもよく明るい感じの落ち着いた風合いに配慮している。廊下は車いすが交差できるほど幅広く、居間など全体的にゆったりとした作りである。また、季節感のある利用者の作品も掲示して、居心地のよいリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と座る場所が決まっています、それぞれ話をしたり、新聞を読んだり、TVを観たり、居心地の良い居場所となっていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具等を使用されたり、神棚を置かれている入居者様もいます。殆どは、御家族様や入居者様自身の考えにお任せしています。	居室名を果物名にして、利用者が間違えないよう工夫している。居室は、洗面台と収納、ベッドも設置されている。室内は白とベージュの落ち着いた感じの配色で、利用者が、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、バリアフリーで安全な環境づくりを行っています。「できること」「わかること」の見極めをして、自立に向けた支援を行っています。		